

# 令和5年度事業計画書

## 【主な会議開催予定】

- |                       |     |               |
|-----------------------|-----|---------------|
| ・通常理事会                | ・・・ | 令和5年5月、令和6年3月 |
| ・定時評議員会               | ・・・ | 令和5年6月        |
| ・「前立腺シンポジウム」プログラム委員会  | ・・・ | 令和5年7月        |
| ・前立腺がん検診・人間ドックアンケート報告 | ・・・ | 令和5年12月       |
| ・「研究助成」に関する選考委員会      | ・・・ | 令和5年12月       |
| ・「前立腺シンポジウム」運営委員会     | ・・・ | 令和6年2月        |

## 【事業計画】

### 1. 前立腺シンポジウム学術集会（自主事業）

年1回、国内外の研究専門家（泌尿器科、放射線科、病理学等）を対象に、開催の詳細をホームページに開示・泌尿器科学会雑誌への掲載をもって受講者を募り、専門的知識・技能等の普及、人材の育成を行う事業である。前立腺疾患の診断・治療の向上、均てん化に寄与する。シンポジウムの主テーマの設定については、前年度の開催会場において実施するアンケートの集計結果を参考に、シンポジウム運営委員会において決定される。シンポジウムの講演内容は泌尿器科専門誌に掲載する。また、同シンポジウムに参加され、得られた専門的知識等の講演内容をもとに全国の泌尿器科専門医等が各地域で開催される市民公開講座の講師を務め、講演することにより健康的な国民生活の実現に努める。

### 2. 研究助成（公募）

前立腺疾患に関連する基礎的研究および臨床的・疫学的研究について、若手研究者を対象に、公募によって申請のあった研究課題について、必要資金を助成する。

令和4年度は、公益法人化10周年企画として「特別研究助成」を実施した。今年度は、従来の研究助成となるが、助成金額は、最優秀、優秀の区別は取りやめ一律1,000,000円とし3名に助成する。（4年度は特別研究助成として4名であったが、5年度は通常の3名とする。）

すべての応募について有識者からなる選考委員会（12月実施）に諮り、助成の対象となる研究課題の推薦を受け、理事会で議決承認をもって最終決定する。

### 3. 人間ドック施設における前立腺がん検診実施状況調査（自主事業）

年1回、公益社団法人日本人間ドック学会の協力のもとに、人間ドック施設における前立腺がん検診の精度管理方法を構築する基礎資料とする目的で、人間ドック施設のうち検査項目に前立腺がん検査を導入する実施機関にアンケート調査票を配布する。

回答の集計結果は、泌尿器科専門医および医療統計の専門家による解析を加えたのち、報告書に取りまとめ協力いただいた実施機関に情報として提供する。また、検診研究(伊藤班)および本調査の集計に深く関わっている先生方による報告会議を開催する。その

会議において、医療統計の専門家が成果報告を公表している。全国の泌尿器科専門医等が各地域で開催される市民公開講座の講師を務め、成果報告をもとに、講演することにより広く社会一般に前立腺がん検診の普及啓発に努める。

#### 4. 情報提供（自主事業）

がん啓発団体と連携し、一つのメディアとして情報発信を行うウェブサイトで、がん医療に関わる映像、セミナーの予定をシンプルに、ワンストップで受け取ることができる組織である「キヤンサーチャンネル」に加盟し、インターネットで配信する科学的根拠に基づく「がん医療情報」を提供することに努めている。動画による組織紹介および泌尿器科専門医、放射線科専門医による前立腺がんに関する情報提供を主体にキヤンサーチャンネルを活用し、簡易に利用できるシステムからの情報で、広く社会一般に的確な情報を提供する。

#### 5. 学術図書等の刊行（自主事業）

わが国に増え続けている前立腺がんに対する罹患者数を減らすためには、前立腺がんに対する正しい知識と啓発が欠かせない。保健行政担当者向けに、時節に即した前立腺がん検診に関するトピックス等の特集した「前立腺がん検診学術ニュース」を刊行し、全国の自治体に送付する。住民検診実施時などに市民から寄せられる問い合わせ等に活用するとともにホームページ上に内容の要約を開示し、広く社会一般に公表する。

#### 6. パンフレット等の印刷（自主事業）

一般市民向けに、前立腺がん検診についての最新情報をわかりやすく解説した「PSA検診受診の手引き」のパンフレットを印刷し、必要に応じて全国の自治体への送付並びに市民公開講座開催時の配布資料に提供するとともにホームページ上に内容の要約を開示し、広く社会一般に公表する。

#### 7. 前立腺微小がん発症と臨床がんへの進展の1次予防（化学予防）についてのコホート研究（自主事業）

食生活習慣因子と前立腺がんの発症リスクの関係を検証することを主目的とし、2つの前向きコホート研究から構成される。

研究1では、比較的若年層（主に40歳代）での微小がん発症（がんのイニシエーション）について、血清中イソフラボン濃度、一般的な食生活習慣（大豆イソフラボン・リコペンなど）の影響を、コホート研究により検証する。研究対象は35～44歳の間ドックのPSA検診受診者で、ベースライン検診受診時の問診と血清中イソフラボン濃度を測定し、5～8年間追跡を行い、その間の微小がん発症については、代替指標として、生涯の前立腺がん発症の高リスク因子である40歳代のPSA基準値2.0ng/ml以上あるいは3.0ng/ml以上へ上昇、あるいは遊離型PSA/総PSA比（%f-PSA）が低下（15%以下、10%以下に低下）する事象を用い、ベースラインあるいは経過観察時のイソフラボン濃度とPSA上昇との関連性を検証する。また、問診により、20歳代前半の食生活習慣とベースライン検診時のイソフラボン濃度との関連性、またPSA上昇リスクとの関連性を検証し、食環境が40歳代における体内のイソフラボン環境、潜在的な微小がん発症に与える影響を探索することを目的とする。

研究2では、45歳～54歳の検診受診者の中で、PSA基礎値高値例（前立腺がん発症高リスク群）とPSA基礎値低値例（前立腺がん発症低リスク群）について、将来の前立腺臨床がん進展へ影響（がんのプロモーション）する因子を探索することを目的とし、ベースライン検診受診時の問診と血清中イソフラボン濃度を測定し、以降、5～8年間追跡を行い、その間に同施設の間ドック健診を受診した際のPSA値の結果を調査し、期間中にPSA値が基準値上限を超えた場合には、通常の間ドックでの対応と同様に、泌尿器科専門医への精密検査のための受診を勧奨し、精密検査結果について調査を行う。本研究によって構築されたデータベースに含まれる血清中イソフラボン濃度、PSA値の変化、問診結果は、食習慣と臨床的な前立腺がん発症の関連性について長時間の検証を行うデータベースの構築にもつながり、その医学的意義は大きいと期待される。これらの研究で得られた結果は、前立腺がんの化学予防についての端緒を開くことになる。

本年度はベースライン時の食環境問診の電子データ化が完了していることから、PSA値、PSA上昇、%f-PSA、がん発症と20歳代前半、健診受診時の食環境との関連性の解析を進める。

主任研究者 黒沢病院 院長 伊藤一人

## 8. 前立腺がん死に対するPSA検診の効果検証（自主事業）

前立腺がん検診の有効性を多角的に検証することを目的として、北海道・群馬県・広島県・長崎県で2002年度（長崎県は2003年度）から開始された対照研究（Japanese Prospective Cohort Study of Screening for Prostate Cancer; JSPSC）は国内外から重要な疫学研究と期待されている。対照研究のモデル地区ではPSA検診受診率を60%以上に上げることを目標とし、2011年度で住民検診を中心とした、地域住民への積極的なPSA検診介入を終了した。2020年度中に、モデル地区では、検診受診者・精密検査受診者・がん発症例・がん死症例とその転帰の記録が個人認識番号により全て連結され、対照地区に関しては、住民検診曝露率、年度別生検施行数、がん登録、がん登録症例の転帰に関するデータベースの構築が行われる予定であったが、これまで予定されていた前向き介入研究は、臨床研究法の制定により、当初計画した大規模な介入を伴う研究の実施は困難であることから、今回の症例対照研究・時系列/地域相関研究への後ろ向き研究への計画変更に至った。

2020年度より、群馬県内の前立腺がん検診データと、地域がん登録・予後情報との連結を行う研究が開始された。2020年年度内に関係各所の倫理審査を全て通過し、UMIN登録（科学的試験名：前立腺癌検診の有効性評価に関する症例対照研究・時系列/地域相関研究：UMIN000043131）が完了した。2020年度から計画を変更して開始した新しい研究の概要は以下の通りである。

目的：群馬県内の2018年度までの前立腺がん検診受診者の検診結果と2020年度までの前立腺がん登録情報、予後調査のデータを結合させ、前立腺がん検診受診歴と前立腺がん死亡リスクの関連性などを検証する。

主要アウトカムと評価項目：群馬県がん死検証コホート・旧伊勢崎市がん死検証コホートにおけるケース・コントロール研究：前立腺がん検診受診歴と84歳以下（日本人男性平均余命約7年以上）での前立腺がん死亡リスクの関係を検証する（オッズ比算出）両コホートともに影響因子である検診受診歴は以下についてすべて検証する。

- ① 検診受診歴の有無：市町村前立腺がん検診データに基づく解析：受診歴あり vs. 受診歴なし
- ② がん発見契機（MN レポートによる受診動機）による解析：検診・健診による発見 vs. 有症状発見
- ③ がん発見2年以内の検診受診歴有無：受診歴あり vs. 受診歴なし
- ④ がん発見5年以内の検診受診歴有無：受診歴あり vs. 受診歴なし
- ⑤ がん発見5年以内の検診受診歴有無：2回以上の受診歴あり vs. 受診歴なし+1回受診歴あり

副次アウトカムと評価項目（抜粋）：1) 後ろ向き観察研究：前立腺がん検診受診者の年齢・PSA 基礎値別前立腺がん診断・転移がん診断・がん死亡リスク検証、2) 時系列/地域相関研究

現在、検診データとがん登録データの統合作業が順調に進んでいることから、本年度より上記の極めて重要な解析を進め、その結果を医学専門誌に公表する手段を講じる。

## 9. キャンペーン（後援事業）

前立腺がんの正しい知識、「早期発見・適切治療」の大切さを国民にわかりやすく伝えることのもつて、NPO法人前立腺がん啓発推進実行委員会 代表者 昭和大学泌尿器科 教授 深貝 隆志先生が主催するブルークローバー・キャンペーンに対し、後援名義の使用承認を行っている。泌尿器科専門医や各界からのキャンペーンサポーターを募り、活動をより幅広いものとするに協力している。また、前立腺シンポジウムにおいても啓発を行っている。

ブルークローバー・キャンペーン時には必ず市民公開講座を開催している。市民公開講座の配布資料となる財団の刊行物、パンフレット等の提供とともにキャンペーン事務局のアドレスを財団ホームページにリンクし、前立腺がんに関する最新情報を国民に速やかに発信することに努める。

以上